

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	河内長野市総合計画審議会（第2回第1部会）
2 開催日時	令和6年12月26日（木）午前9時30分から
3 開催場所	河内長野市役所5階501会議室
4 会議の概要	(1) 基本構想骨子（素案）について（協議）
5 公開・非公開の別 （理由）	公開
6 傍聴人数	0名
7 問い合わせ先	（担当課名）総合政策部 政策企画課 （内線340）
8 その他	

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

第2回 河内長野市総合計画（第1部会） 議事要旨

日時:令和6年12月26日(木)

午前9時30分から

場所:501会議室

1. 開会

○事務局あいさつ

2. 議事

(1) 基本構想骨子（素案）について（協議）

→資料1に基づき基本構想骨子（素案）について説明。

<質疑>

松端部会長：市民の目から見てどうか。

林委員：これが冊子になって、市民に配布されるのか。

松端部会長：市民に配布して共有するとともに、市外にもアピールして、全体の活性化を図る。

林委員：この資料は、先日のワークショップで出た意見をカテゴリごとに整理して、その中でポイントになる言葉が抽出され、それに対する説明書きがあるという形にまとまっているのか。

松端部会長：そのとおりである。日々暮らしていると気付かないが、ちゃんと見るとわかる良さが表現されている。

市事務局：これが完成形ではなく、他の部会のご意見も踏まえて進めていく。

松端部会長：松本委員は若い世代としてどう思うか。

松本委員：消滅するのではないかと不安だったが、これを見て、未来のあるまちだと感じた。もともとは教育に興味があり、経済格差やハンディキャップを持っている子どもたちを何とかしたいと思って参加した。

松端部会長：「地域がまるごと学校」にはピンとくるか。もしこないなら、ピンとくるように修正していく必要がある。

中道副部会長：「学びを誰かの喜びに」という表現はすごい。これからの生涯学習の方向性が書かれている。

松端部会長：「好き」がキーワードになっているが、松本委員は河内長野が好きか。

松本委員：昔の河内長野のほうが好きだった。新しい人が入ってきて、雰囲気が変わった。優しい市民が減ったという印象がある。

松端部会長：いろいろな意見があると思うので、率直なご意見をいただき、内容をブラッシュアップしていきたい。ターニングポイントを経た今後10年の方向性は、どん

な議論をしてどんな総合計画にするかによって決まる。

→資料1、資料2-1、2-2に基づき、基本構想骨子（素案）について2つのグループに分かれてディスカッション。

3. 事務連絡

→事務局より、事務連絡について説明

4. 閉会

(以上)

【参考：ディスカッションで出された主な意見】

問：10年後、私たちはどんな「ふだん」を生活しているのだろう。

答え（コピー）	A グループ	B グループ
自然が元気、みんなも元気。		<ul style="list-style-type: none"> ・内容が具体的でないので実感しにくい（自然の状態を知らない市民に伝える工夫が欲しい）
ホテルも、子どもたちも、光ってる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で育つ子育て ・「地域で子育て」は子育て世代に本当に求められているのか？地域と子育て中の親を間につなぐものが必要ではないか。 ・川をきれいにしたいボランティアが集まるまち ・今の自然を10年後も維持できるまちに ・まずは、現状に対しての解決策検討 ・施設の子育て以外の支援→地域住民のサポート ・子育て知恵袋の情報発信 ・緊急の子ども病気の対応する一時預かり ・育ち盛りの子どもの食料支援→食品ロスの活用 ・幼老複合施設の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルと子どもだけでなく「みんな」を入れた方が良さ。「ホテルも、子どもも、みんなも、光っている」 ・10年後にホテルが見られるように今以上にきれいな川を作っていく ・子どもが遊べる場所（公園など）の安全を維持する（見守り隊などで、子を安心して遊ばせられる場所に。） ・子どもが自然を知る・自然に対する興味をもっと増やせるような教育 ・光っている→輝いている ・自然を管理し、子どもも里山に触れ、自然観を育てていく ・住民で川を美しくする活動 ・沢山いる昆虫と触れ合える
水が美味しい。川が、まちが、美しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・水、川がまちが美しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・川といえば河内長野 ・水や川、市民が（良さを）実感できていないのではないか ・安心して遊べる川（心理的にも安全な川） ・子どもと川をつなげる→遊んだ記憶は財産に→意識が高まり綺麗な川に
求心力も抜群？ 日本一「安心」なまちへ。	<ul style="list-style-type: none"> ・求心力も抜群？→みんなで守る日本一「安心」なまちへ。 ・犯罪の発生率のデータを少し教えていただけたらと思います（府下の分） ・防犯、再犯防止、生活の安定 	<ul style="list-style-type: none"> ・「求心力」が何のことかわからない ・「求心力も抜群」がわかりにくい→心地よい・穏やか、など違う表現の方が良いのではないか ・"子どもたちへの見守りの良さについても触れたらな

	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用の安定=安心 ・安心→災害、防犯、医療 ・防犯に対して→犯罪予防→行政と個人の対策 ・災害に対しての安心→他地域との比較、具体的対策 ・医療→健康維持、治療 ・震度7でも安心 ・誰もが楽しく、元気であいさつしてくれる、してもらえるまち ・ひとり（独居）でも安心 	<p>およい（見守り隊の活動をしている人と子どもや保護者をつなげ、感謝を伝えるなどすれば、より守られている実感があるのではないか）"</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川の整備と道路整備をしっかりとしていく ・地域共生社会構築（近所同士の関係が実現された10年後に） ・日本一健康寿命の長いまち ・高齢者がスマホを活用し、活動が活発なまち ・デジタルの活用で孤独・孤立を防止 ・子どもが安心して安全に遊べる場所はどんなところかを再度考えることも必要（見守り隊の拡大）
オンラインで、まちづくりに参加？		<ul style="list-style-type: none"> ・「しんどい」を解決。「楽しい」まちづくりへ（地域の活動に対するイメージを、しんどいから「楽しい」へ。） ・「楽しい」を鍵につながるまち ・子どもが楽しいと「しんどい」より「楽しい」になる
ちょうどいい近さの、ご近所さん。		<ul style="list-style-type: none"> ・「ちょうどいい」の中身をみんなで考えられるまち ・ちょうどいい→ほどよい ・自治会の活性化（どんな工夫が必要か、何が求められているか、を考える機会が必要）
その他	・1-1 と 1-2 の内容はほぼ同じでは？	

問：「じぶん」が活きるまちって、どんなまちだろう。

答え（コピー）	A グループ	B グループ
全員、主役。全員、ファン。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが主役、みんなのファン（全体的にひらがなが多いのにここだけ漢字だから） ・健康寿命を延ばすための運 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなまんなか、違いを認めて喜び合える社会 ・市民祭り・市民参加の催しを増やす、もしくは充実させる

	<ul style="list-style-type: none"> 動プログラム (YouTube) ・フレイル予防 ・人と関わるのが重要＝元気、ボランティア ・ボランティア活動参加率 No.1 のまち (参加率は低下しているが、10 年後には No.1 になりたい) 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者がまちから必要とされるまちへ (生涯活躍できるまち)
支えて、支えられて、活かし合って。	<ul style="list-style-type: none"> ・熱がでて一時的に預かってくれる場所があるまち ・支えて支えられて活かしあう ・充実した地域での支援 ・薬局、コンビニでの栄養プログラム支援 (給食センター) 	<ul style="list-style-type: none"> ・できることがある人が「やってみる」になる、参加しやすい工夫を ・ (強制せず) 互いのできることをしていく ・お互い様の心を育む ・公式輪投げ、ボッチャなどのニュースポーツの指導活動を行う ・老人会で健康推進・交流・親睦を深める ・見守りを互いにするなど、高齢者が高齢者を支える
地域がまるごと、学校。	<ul style="list-style-type: none"> ・まちがまるごと学校 ・学校・幼稚園の授業にお年寄りの経験を取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の児童や生徒が参加できる催しを行う (学校を超えて、まち全体の教育を) ・学校は上から教え込まれるものではなく、学び合うまちに。(教えてもらうのを待つのではない) ・農業・林業など、みんなが先生
学びを、誰かの喜びに。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育を通じて地域貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分 (たち) だけ楽しいを、みんなに広げるまちへ (自分が楽しむだけではなく、できることを伝えていく) ・個々の経験を活かせる仕組みづくり (「まちの国宝さん」的な人材の掘り起こし) (できる人、を探す) ・喜びが幸せにつながるように
動いた先で、いくつもの感動を。	<ul style="list-style-type: none"> ・免許証返納後の移動手段 (高齢者が多いので) ・車がなくても生活できる (出かけるほう、届けてもらうほう) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によって「便利さ」にバラツキのないまちになればよい ・バスの本数が少ないなど、地域によって差がないよう

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民体育会（遠足） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ になってほしい ・ クルクルの走行地域を拡大してほしい
みんなバラバラ、みんなイキイキ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「みんなちがってみんない」が実現しているまち ・ みんなそれぞれ、みんなイキイキ（バラバラよりもそれぞれ） ・ 女性だけ、男性だけではなく、「みんな」 ・ 権利（安心、自身、自由） ・ 自治会総会の開催にて地域活性化策を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バラバラではなく、みんな違ってみんなよい ・ 国際色豊かなまちづくりの視点をもち、在住外国人との協働を図る（歴史のまち＋外国人との協働で話題に）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協働が大事 ・ 物言うだけではなく「動く市民」になる ・ 守る市民 	

問：③これから、どんな「好き！」を深めていけるだろう。

答え（コピー）	A グループ	B グループ
まちの顔を、笑顔でいっぱい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちの顔 あふれる笑顔 ・ ご近所での挨拶、笑顔（引越越しされてきた人には） ・ 近所づきあいが喜びになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路整備、宿泊施設の整備 ・ 絆の強い・助け合う、隣近所の付き合い ・ 楽しいシーンをたくさん作り、世代間交流を促進
あたらしい一歩、踏み出し放題。		<ul style="list-style-type: none"> ・ まちで活動する際にいろいろな取組の選択肢がある（選択肢をみんなが知っている＋参加したい人が参加しやすい環境） ・ チャレンジャーが歓迎されるまち ・ 挑戦を応援するまち（みんな応援団） ・ 人が人を呼ぶまち（良いと思う＋伝えたいと思う）
推せるものを、育てるうれしさ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ施設再編で市外へアピール 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推しを育てる嬉しさや楽しさや喜びを感じられるまちであればよい ・ 女子サッカーチームなどを推していてもスポーツ施設がないので招待できない。推しを招待できる施設・宿泊施設の整備を ・ 誰もが参加できるように

		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの例のように、地域に招聘できる団体を積極的に呼ぶ ・推しが見つかるまちとして、推される可能性があるものを伝えていく ・推しの魅力を実感できる仕掛けを
住（じゅう）を、もっと自由に。	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートに農業 ・若い人が農業（デジタルも） 	<ul style="list-style-type: none"> ・住を自由、というより、地域間交流？
畑で活躍するクリエイター？	<ul style="list-style-type: none"> ・好きと好きが叶えていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業は大事。子どもや保護者も巻き込み、魅力を知ってもらおう
つながって、叶えていく。		<ul style="list-style-type: none"> ・「私のまち」を大事にしたい気持ちを育て、自分事として行動できる人を育てる ・世代にとらわれずつながりを感じられる機会を ・集う場所の拡充（子育てする人が、子どもを遊ばせられる。悩みを打ち明けられる、一人じゃないと思える場所等） ・自主防災組織の充実 ・子どもと年長者が交流を持てる催しを増やせればよい（既存のお祭りなどについて、若者が参加しやすい形に）
その他		

その他の意見

A グループ	B グループ
<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事象をキーワードに入れたらどうか 	

河内長野市総合計画審議会 第1部会（2回目）

日 時：令和6年12月26日（木）午前9時30分から

場 所：河内長野市役所 5階 501会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

（1）基本構想骨子（素案）について（協議）

- ・基本構想骨子（素案）について、事務局から説明

・・・資料1

- ・基本構想骨子（素案）について、ディスカッション

・・・資料1、2－1・－2

3. 事務連絡

4. 閉会

資料1

基本構想骨子（素案）

まずは、冊子タイプのツールを制作。そのダイジェストをポスター・フライヤー（ペライチ）に展開

伝えるべきメッセージやストーリーをしっかりと伝えることができ、かつ、より多くの市民の方々が手に取り、持ち帰って長く見ていただけるツールとして、A5サイズ程度のコンパクトな冊子を想定。その内容を要約・凝縮したものをポスター・フライヤー（ペライチ）にまとめ、市内各所に掲示するという活用法も考えられます。

「問い」をベースに、河内長野市のこれまでとこれからを2部構成で伝える

第一部（前半）は、すでにある事実にもとづく一問一答。

いま第3の**ターニングポイント**を迎えていることや

これまで**河内長野市が培ってきた魅力（安心・安全・自然・つながり・歴史）**を伝えます。

「問い」と「答え」というかたちを取ることで、こちらが伝えたいことの一方通行にならず、分かりやすく、かつ、興味を持って読み進めていただける冊子をめざします。

第二部（後半）は、**未来というまだ実態のないもの**について考えていただくきっかけをつくるために、

「問い」を未来へ向けて、その答えとなる選択肢・可能性をひとつではなくいくつも用意して、

「ふだんを生きる、じぶんが生きる。

知るほど暮らすほど「好き！」が深まる千年都市。」

という基本構想を紐解いていきます。

【第一部 構成・ストーリー案】

これまでいただいた市民・職員・審議会委員の意見から導き出された要素をもとに、
一問一答形式による展開を試みました。

ターニングポイントを迎えている河内長野の現状

「まちづくり」

+

河内長野に現時点で既にそなわっている魅力

「安心・安全」 「自然」 「つながり」 「歴史」

○導入メッセージ

千年都市と、これからの十年。

今回の基本構想に込められた想い、
つぎの十年が、これからの千年につながっていくこと。

そして、この冊子を活かして、
一人ひとりが河内長野の魅力を再発見したり、
新しい可能性を見つけたりして、
楽しみながらまちづくりに参加してもらえたら、
というメッセージを導入で伝えられたらと考えます。

Q.
河内長野市のまちづくりは、
今、どうなってるの？

→

A.
ターニングポイント

若年層（0～15才）が7年連続で転入超過。
子育て世帯の転入が増えています。

#まちづくり
千年都市に訪れた、チャンスの十年。
再生フェーズへのターニングポイントを迎えていること。

Q.
どうして、若い世帯が
引っ越してきているの？

→

A.
空き家の循環

大阪最少だった空き家率に変化のサイン。
長く住み続けるまちから、住み継ぐまちへ。

#まちづくり
2003年、空き家率が府内最少。
それだけ長く定住する人が多い、ということ。
その空き家率に変化が生まれ、
空いた住居に新住民が転入するケースも増えていること。

Q.
大阪のなかでも、
河内長野が
いちばん強いのは？

→

A.
地盤

「強い地盤」ランキング、ダントツの最高スコア。
府内で1番地盤が強い河内長野。

#安心 #1000年
府内で1番地盤が強いこと。
それによって重要文化財や昔からの暮らしが長く守られてきたこと。
文化財の多さ、府内2位。

Q.
河内長野は、
安心して住めるまちなの？

→

A.
防犯も、大阪一

刑法犯認知件数、府内最少。
防災も、防犯も、安心のまち。

#安心
刑法犯認知件数、府内最少。
防災だけでなく防犯の面でも安心できるまち。

Q.
窓から見えるのは？

→

A.
みどりが近い

森林の面積は府内市中1位。
緑視率も高く、自然が身近にある暮らし。

#自然

市域の67%が森林。窓から緑が見える「緑視率」も高いこと。
おおさか河内材の生産地でもあること。
河内長野を代表する岩湧山は、登山者や観光客にも親しまれている。

Q.
川に行くと見えるのは？

→

A.
ホタルやおシドリ

大阪で唯一、全域水質AAの石見川。
秋になるとオシドリがやって来る、滝畑ダム。

#自然

独自の水系、きれいな水。全域水質AAの石見川をはじめ、
一級河川の石川も滝畑ダムをはじめとする治水によって地域を支え、
毎年10月ごろになるとオシドリが飛来する。（河内長野八景のひとつ）
流域にはホタルが飛び交う場所も。

Q.
道のそばで
にぎわっているのは？



A.
道の駅

人気ランキング大阪1位。
道の駅 奥河内くろまろの郷、絶好調の発進。

#つながり #自然 #まちづくり
2017年に府内10番目の「道の駅」に登録された
「道の駅 奥河内くろまろの郷」。
自動車で訪れる人だけでなく、サイクリストにも人気で
まだ生まれて月日の経っていない道の駅でありながら、
人気ランキングで府内1位に輝く。
河内長野の旬の食材を活かしたビュッフェや、
河内小麦でつくるパン、植物園など、地域の風土が息づいている。

Q.
地域の自然や暮らしを
守っているのは？

→

A.
市民

リサイクル率、府内2位。
まちのゆたかさにつながる、一人ひとりの営み。

#つながり

河内長野のリサイクル率は府内2位。
市民や事業者たちの日頃の取り組みが、自然を守ることに繋がっている。
リサイクルだけでなく、さまざまな活動において
主体的にリーダーとして活躍している市民・事業者の方々がいる。

Q.
新しく暮らしはじめた人も、
馴染みやすいのはなぜ？

→

A.
心地よい つながり

新しい人にひらかれた河内長野。
伝統も、新しい挑戦も、大事にできるまち。

#つながり

新しくまちに入ってきた人を受け入れる包容力。
子育てや福祉、世代を超えたつながり。
伝統産業と新産業。

Q.
河内長野の歴史は？

→

A.
1000年

中世文化遺産の宝庫。
日本遺産に認定された「中世に出逢えるまち」。

#1000年

1023年に藤原道長が「高野参詣（高野詣で）」を行ったという記録が残され、その頃から人口が増え始めたことが発掘調査でも確認されている河内長野。その歴史のながさや、地域に残る文化的な資産について。酒蔵通りの景観（街並み）・高野街道・観心寺・金剛寺・延命寺など。

Q.
河内長野で1000年、
続いてきたものは？

→

A.
ふだんの暮らし

文化財だけでなく、この地で連綿と続いてきた「暮らし」そのものが、まちの資産。

#1000年

特別に指定された重要文化財だけでなく、この地で千年にわたって続いてきた「ふだんの暮らし」。京都のような華やかな文化の中心ではなく、河内長野は日々の暮らしの中に価値があり、その価値を見つめ直したり、さらに磨いたりすることで、魅力を育んでいける。

【第二部 構成・ストーリー案】

未来というまだ実態のないものについて考えていただくきっかけをつくるために、
「問い」を未来へ向けて、
その答えとなる選択肢・可能性を、ひとつではなく、いくつも用意して、

**ふだんを生きる、じぶんが生きる。
知るほど暮らすほど「好き！」が深まる千年都市。**

という「ありたい姿」を紐解いていきます。

○後半 導入部

ふだんを生きる、じぶんが生きる。

知るほど暮らすほど「好き！」が深まる千年都市。

後半は、「ありたい姿（仮）」の紐解きをしていけたらと考えます。

10年後、私たちは
どんな「ふだん」を生活しているのだろう。

自然が元気、みんなも元気。

豊かな自然を手入れしながら守り続けることが出来ている（守るための担い手がいる。担い手は役所だけでなく、市民も）
→自然がただ現状維持ではなく、市民のみんなで思い入れをもって手入れをすることで、
よりいきいきとしたものとして自然を感じることができる状態に。
義務として手入れに取り組むのではなく、自然とかかわる時間がふえることで、日々のゆたかさや活力が増していく。
さらに、ゆたかな自然を活かして農林業や地場産業、商業もより発展し、産業・経済の面でも元気に。

ホタルも、子どもたちも、光ってる。

手入れされた自然の恵み（きれいな水、ホタルが飛ぶ風景、農産物）を子どもも大人も楽しむ。
→ゆたかな自然が身近にあり、子どもたちが顔を輝かせながら、自然に親しんでいる。
大人たちもその様子を見て良い表情をしている。

水が美味しい。川が、まちが、美しい。

手入れされた自然の恵み（きれいな水、ホタルが飛ぶ風景、農産物）を子どもも大人も楽しむ。
→石見川の水質や滝畑ダムによる治水が守られ、ふだんの暮らしの中に、おいしい水がある贅沢。
街の美化やごみの適切な処理といった、美しい自然を守るための取り組みも活発に。

求心力も抜群？ 日本一「安心」なまちへ。

治安の良さ、地盤の固さが知られ、「安心」がまちのブランドになっている。
山が近いゆえの土砂崩れの心配についても、ちゃんと対策が取られている。
→「安心のまち」として全国的に名前が知れ渡り、それが多くの人を惹きつける求心力（ブランド力）に。
医療・救急や消防などの体制も整え、万一病気になったり火事が起きたりした時も「安心」を感じられるまちに。

オンラインで、まちづくりに参加？

デジタル化が進み、市役所にも声が届きやすくなっている。
また、負担が重すぎず、若い人や共働きの人も町内会・自治会に参加しやすくなっている。
→小さな子どももいる若い世代が、自宅で寛ぎながら町会に参加しているイメージなど。

ちょうどいい近さの、ご近所さん。

負担が重すぎず、町内会・自治会に入りやすい。デジタル化が進み、若い人や共働きの人も参加しやすくなっている。
→疎遠ではなく、近過ぎもしない、ほど良い距離感で付き合えるご近所さん、コミュニティ。

「じぶん」が活きるまちって、
どんなまちだろう。

全員、主役。全員、ファン。

一人ひとりの個性が活かされ、活躍できるまち。

→いろいろな人がいて、誰もが主役になれる。と同時に、それぞれが誰かのファンになって応援もし合っている。

支えて、支えられて、活かし合って。

一方的に「支える側」「支えられる側」ではなく、互いの長所や特性・経験を活かして、地域でイキイキと活躍している。

→自分だけでできないことはどんどん支え合い、自分が好きなこと、得意なことはどんどん活かし合えるつながり。

たとえば、ヤングケアラーと呼ばれる子どもや、ひとり親家庭、障がいをもつ子どもなど、

困難な状況にある子どもを支える取り組み。

高齢者や、障がいをもつ方も、一方的に支えられる側ではなく、「支える側」としてこうした取り組みに参加できる

つながりをつくり、そこで誰かに支えてもらった子どもたちが成長して、大人になってまた誰かを支え、

支え合いの循環が生まれていくようなまちに。

地域がまるごと、学校。

こどもが学校・地域で学ぶ場が様々にあり、豊かな体験のもとで成長している。

→教室の中だけが学びの場ではなく、地域全体がゆたかな学び舎に。一人あたりの面積が府内2位を誇る都市公園もさらに整備され、子どもたちやその家族、世代を超えて多くの人が集まる場になり、貴重な学びと交流が生まれる場になっている。

学びを、誰かの喜びに。

生涯学習内容を地域に活かせるようになっている。

→大人も学び、その学びを、まちづくりに還元していく好循環が生まれている。

動いた先で、いくつもの感動を。

「くるくる」のような移動手段が南花台以外にもある（免許返納しても困らない）

→自家用車がなくても、活発的に動き回るシニアの方や外国籍の方。動くことで、感動に出会うチャンスを広げていける。

みんなバラバラ、みんなイキイキ。

老若男女、国籍・障がいの有無に関わらず個性が活かされ、イキイキと暮らせる。

→多様な人たちがいて、それぞれの違いを個性として活かし合いながら、みんなが好きなこと、得意なことを楽しんでいる。

これから、どんな「好き！」を
深めていけるだろう。

まちの顔を、笑顔でいっぱい。

住む人、訪れる人にとって、まちの顔となる駅前が整備され、にぎわっている。

→まちの顔である駅が、笑顔の人々であふれ、駅も笑顔に。

駅を基点に、まちの景観が美しくなったり、新しいお店や楽しいスポットができたり、商店街が再び活性化したり。

それが人を惹きつける魅力となって、地元の人も、観光客の人たちも集まり、各所に活気があふれている。

あたらしい一歩、踏み出し放題。

子育て世帯・共働き世帯に選ばれる。／新しく転入した人も地域になじみやすい。

→大切な人と一緒に、あたらしい一歩を踏み出すのに、「このまちがいい！」と思える場所へ。

みんなもその一歩を応援してくれて、支え合っていけるから、

新しい生活やチャレンジしたいことをどんどん実現させていける。

推せるものを、育てるうれしさ。

市民が応援したい、大切にしたい、と思うものがそれぞれにあり、市民が主体的にそれを守り育てている
（スポーツチーム、歴史・文化財、お祭り、公園）
→一人ひとりが自分の推しを持ち、自分たちの手でそれを育てていく

住（じゅう）を、もっと自由に。

住み方の多様性（一戸建てもアパートも古民家も）
→いろいろな住み方、暮らし方を選択できる自由。たとえば、ニュータウンでふだん生活し、週末は集落の田畑に出かける、といった多様な地域の魅力を活かした暮らしの楽しみ方も。

畑で活躍するクリエイター？

農業や林業の振興
→テクノロジーや、デザイン的な思考を取り入れることで、農業や林業がさらにクリエイティブな仕事に。
若い発想や感覚をもった人たちが、畑や山で活躍できる新しいカルチャーが生まれている。

つながって、叶えていく。

つながり、やりたいと思って行動したことが「実現できる」まち
→どんどん新しい一歩を踏み出すだけでなく、みんながつながって力や知恵を出し合えば、実現したいゴールまで辿り着けるまちをつくっていける。

○結びのメッセージ

（仮）

一人ひとりの「好き！」が、
つぎの十年、つぎの千年をつくっていく。

[第2回]第1部会・第2部会・第3部会

河内長野市第6次総合計画

基本構想(後半部分)の検討

資料2-1

ありたい姿(仮)		ふだんを生きる、じぶんが生きる。 知るほど暮らすほど「好き！」が深まる千年都市。	<部会>	<該当する施策>
問い	10年後、私たちは どんな「ふだん」を生活しているのだろう。		① ② ③	
答え	自然が元気、みんなも元気。	● ●	8. 産業・雇用	13. 環境共生 17. 共生社会
	ホタルも、子どもたちも、光ってる。	● ●	13. 環境共生	1. 子育て支援
	水が美味しい。川が、まちが、美しい。	●	13. 環境共生	15. 公園・緑地・景観 14. 衛生
	求心力も抜群？日本一「安心」なまちへ。	● ●	1. 子育て支援	6. 福祉 7. 健康・医療 16. 防災・防犯
	オンラインで、まちづくりに参加？ ちょうどいい近さの、ご近所さん。	● ●	17. 共生社会	18. 行財政運営
		●	17. 共生社会	
問い	「じぶん」が生きるまちって、どんなまちだろう。			
答え	全員、主役。全員、ファン。	● ●	4. スポーツ	5. 社会教育・生涯学習 17. 共生社会
	支えて、支えられて、活かし合って。	● ●	6. 福祉	7. 健康・医療 17. 共生社会
	地域がまるごと、学校。	● ●	1. 子育て支援	2. 学校教育 3. 青少年健全育成 17. 共生社会
	学びを、誰かの喜びに。	● ●	4. スポーツ	5. 社会教育・生涯学習
	動いた先で、いくつもの感動を。	● ●	7. 健康・医療	9. 都市デザイン
	みんなバラバラ、みんなイキイキ。	● ●	5. 社会教育・生涯学習 17. 共生社会	
問い	これから、どんな「好き！」を深めていけるだろう。			
答え	まちの顔を、笑顔でいっぱい。	●	9. 都市デザイン	
	あたらしい一歩、踏み出し放題。	●	4. スポーツ	5. 社会教育・生涯学習
	推せるものを、育てるうれしさ。	● ●	4. スポーツ	5. 社会教育・生涯学習 17. 共生社会
	住(じゅう)を、もっと自由に。	●	9. 都市デザイン	
	畑で活躍するクリエイター？	●	8. 産業・雇用	13. 環境共生
	つながって、叶えていく。	● ● ●		
結び	一人ひとりの「好き！」が、 つぎの十年、つぎの千年をつかっていく。		11 8 11	

(参考)分野と施策

資料2-2

分野	施策	該当数
こども・教育	1. 子育て支援	3
	2. 学校教育	1
	3. 青少年健全育成	1
	4. スポーツ	5
	5. 社会教育・生涯学習	6
福祉	6. 福祉	2
	7. 健康・医療	3
都市・産業活性化	8. 産業・雇用	2
	9. 都市デザイン	5
	10. 歴史・文化	1
	11. 観光	1
	12. シティ・プロモーション	1
環境保全	13. 環境共生	3
	14. 衛生	1
	15. 公園・緑地・景観	1
安全安心	16. 防災・防犯	1
協働・行政	17. 共生社会	8
	18. 行財政運営	1